

## 中興の祖 河村郷四頭彰の日

### 移転記念日にあたって

学校法人広陵学園

五月十九日は、本校発展の偉業を成し遂げられた河村郷四先生かわむらさとし（当時 理事長）に感謝の真心を捧げる日として、『中興の祖 河村郷四頭彰の日』※けんしやうと定めています。

広陵学園は、明治二十九（一八九六）年二月に、鶴虎太郎先生の数理学会設立をもって始まり、以来百二十四年の歴史を誇っています。

創立後、幾多の変遷を経て、本校が宇品の地に誕生したのは、大正十（一九二一）年四月です。学園が、昭和四十八（一九七三）年四月に、沼田町へ全面移転するまでの約五十年間、「宇品の広陵」として存在しました。

昭和四十二（一九六七）年から、新しく就任された河村郷四理事長の下、学校移転問題が論議されはじめました。

当時、広陵高校は生徒数の増加により、校地は狭隘※せうがいとなり、教育・部活動に支障をきたすようになりました。また、都市化とともに、交通による騒音、都塵※とじんの悪化の中で、学校全面移転は、昭和四十四（一九六九）年に最終決定されました。その後も、河村先生は、地元の関係者の協力を得ながら、積極的かつ精力的に学園移転に尽力されました。そして、昭和四十八（一九七三）年四月に、沼田町に全面的に移転・開校（生徒数 八百四十名）し、四十七年前の今日（五月十九日）、「校舎落成・沼田移転記念式典」が挙行されました。

移転当時は民家も少なく、交通の便や道路環境も悪く、今日の広島市のベッドタウンとして発展するとは、想像もつかない状況での開校でありました。

移転直後は、入学生徒数も三年間減少しましたが、約四万坪の緑に囲まれた広大な校地をもち、静かな教育環境という好条件の中、生徒・教職員の努力、保護者・同窓会の支援、そして何より地域の皆さま方の温かい支援により、この沼田の地に「沼田の広陵」として着実に発展してまいりました。

河村郷四先生は、大正十（一九二一）年に本校（当時 広陵中学校）を卒業され、早稲田大学政経学部に進学されました。その後、東洋工業（現 マツダ株式会社）に入社され、広島県の経済界・スポーツ界・教育界に偉大な功績を残されました。具体的には、広島商工会議所会頭、株式会社中国放送取締役、広島テレビ放送株式会社代表取締役社長、広島県サッカー協会会長などを歴任され、昭和四十二（一九六七）年、広陵学園の理事長に就任されました。同時に、広島城北学園（旧鯉城学園）の理事長に就任し、膨大な負債を抱え、危急存亡の危機にあった城北学園を見事再建され、その功績により広島城北学園にも、河村郷四先生の胸像が建立されています。以上のような河村郷四先生の長年にわたる公共的な活動の功績に対し、昭和四十九（一九七四）年※くんさんとうずいほうしょうに勲三等瑞宝章を授章されました。そして、昭和六十（一九八五）年三月に、八十二歳をもって永眠されましたが、校内に設けられた胸像は、今もなお母校に思いをはせ、「質実剛健」たる姿で、本校の発展を眺めておられます。

生徒の皆さんは、『移転記念日』の意義をよく理解し、有意義な一日を過ごすよう心がけてください。

（※） 中興の祖……物事の維持・発展に多大な功績があった人に対する尊称。

頭 彰……善行や功績を広く知らせること。

狭 隘……面積などがせまく、ゆとりがないこと。

都 塵……都会のごみごみしたさま。

勲三等瑞宝章……公共的業務に長年にわたり功労を積み重ねた人に国が与える勲章のこと。